



難しい。なぜなら、スヌースを使わない人が紙巻タバコに手を出すようになるかならないかを定量的に明らかにする手段がないからである。とは言え、スヌースには他のタバコと同じく依存性がある(スヌースとこどもの喫煙開始に関する証拠については14~15ページ第8節 a、b を参照のこと)。

- iii. 現在のところ、スヌースが禁煙を助ける上で効果的であることを証明した公開された研究報告は不十分である(スヌースに禁煙を補助する役割を期待できるかどうかに関する証拠に関しては16~17ページ第9節を参照のこと)。
- iv. 公衆の集まる場の喫煙禁止措置やタバコ規制国際枠組み条約などの全国的、国際的タバコ規制対策によって、タバコ使用によりもたらされる有害影響を減らす力があることが証明されている(タバコ規制対策による harm reduction 対策の証拠については17~18ページ第10節を参照のこと)。この文脈のもとで、ASH スコットランドは、スヌースと健康影響の関連の全容が明らかになっておらず、スヌースが依存性をもたらす製品であることを考えるなら、スヌースを harm reduction の一手段とする事はふさわしくないとの結論を出した。
- v. ASH スコットランドは、harm reduction のためにニコチン代替療法製品の使用によってもたらされる公衆への健康危険は、スヌースより少ないと考える(harm reduction 用品としてのニコチン代替療法の使用に関する証拠は21~25ページ第13節 a、c を参照のこと)
- vi. ASH スコットランドは、一般人口に比べて禁煙成功率が低い特定の集団に減煙法を用いて働きかけを行うなどの、より効果的な harm reduction 方策を開発するにはさらに研究が必要であると考え。例えば、長期的禁煙への入り口として、現在行われているニコチン代替療法あるいは他の新しいニコチン代替療法薬が減煙に効果があるかどうかを明らかにするためには、さらに研究が必要である。
- vii. ASH スコットランドは、harm reduction 方策に伴うリスクを最小とし、有用性を最大にするために、イギリスとしてニコチンおよびタバコ規制担当部局を設置する効果的な政府法制の必要性を繰り返し訴える。

本文書に示されたところのピアレビューを受けた公開された科学的証拠に基づき、ASH スコットランドは以下の**勧告**を行う。

- i. 保健専門家の目指すところは、そしてタバコ使用者に最初に行うべきアドバイスは、喫煙者がきっぱりと完全にタバコ使用をやめるようにということである。ASH スコットランドは、harm reduction のための方策と製品の開発よりも、NHS(訳注:イギリスの国民健康保険)の禁煙治療給付へのアクセスをしっかりと保証することを優先すべきであると強く主張する。
- ii. ASH スコットランドは、禁煙治療サービスへのアクセスの困難な喫煙者、重症の喫煙依存者、若年喫煙者に更に多くの人的物質的資源を投入すべきであると考え。禁煙治療の供給と運営を良好に行うためには、治療状況のモニタリングと評価を効果的に行うことが肝要である。

- iii. ASH スコットランドは、独立した専門家委員会をイギリス国内に設置し、ニコチンとタバコ製品の規制に関する企業基準の検証を行えるようにすべきである。また、その委員会がニコチン製品の規制のあるべき姿や、イギリスにおけるニコチンとタバコ依存の治療と予防に関する報告を行わせるようにすべきである(タバコ製品のより厳しい規制の必要に関する証拠については、20~21 ページ第 12 節を参照のこと)。
- iv. ASH スコットランドは、harm reduction 方策に伴うリスクを最小とし、有用性を最大にするために、イギリスとしてニコチンおよびタバコ規制担当部局を設置する効果的な政府法制の必要性を繰り返し訴える。現在、タバコ産業の製品が真にharm reduction をもたらすかどうかを評価することはほとんど不可能となっている。ニコチンとタバコに関する規制強化についてイギリス政府が行っている取り組みは、将来のタバコ関連疾患の広がりを決める鍵となる因子となるであろう。

■ 翻訳 松崎道幸(日本禁煙学会理事)